

はじめに



加古川市は、兵庫県南東部に位置し、鉄道や広域幹線道路など国土基幹軸が市内を通る比較的交通環境に恵まれたまちです。市内には路線バスのほか、「かこバス」や「かこタクシー」といったコミュニティ交通、地域のボランティアによる「上荘くるりん号」が日常生活を支える公共交通として利用されています。

しかしながら、すべての地域において満足な公共交通網が行き届いているとはいえず、日々の移動を自家用車に頼る人が多いのも現状です。中には高齢になってもやむを得ずハンドルを握り続ける人もいます。

このような自家用車に依存する状況は、公共交通の維持にも影響を及ぼしています。利用者の減少に伴い全国的に鉄道や路線バスの衰退が報じられる一方で、スマートフォン向けアプリを活用したライドシェアサービスが世界で広まるなど、公共交通を取り巻く環境は近年大きく変化しています。今後も、自動運転車の導入などにより、移動に関する手段はますます進化していくことが想像されます。

一方で、10年後には市内でも75歳以上の高齢者の割合が20%を超える地域が多くなると予測されるなど、日常生活の移動が困難となる「交通弱者」は増加していく見込みです。こういった目まぐるしく変化する社会情勢や、多様化する利用者のニーズに応じた新たな交通網の形成が求められています。

誰もが行きたいところへ行く権利として「交通権」という言葉があります。日常生活の“移動”はすべての活動の源であり、公共交通はまちの活力を支える必須の社会基盤です。本市では「交通権」の趣旨を尊重し、高齢者をはじめとする交通弱者の視点から、地域特性に応じた公共交通のあり方、移動手段の確保策について検討を進め、「加古川市地域公共交通プラン」を策定しました。今後はプランに掲げる基本理念「日々の暮らしを支え、地域に根ざした公共交通を目指して」に基づき、将来にわたって持続可能な公共交通の確立に向けて、市民の皆さまや交通事業者と取り組みを進めてまいります。

結びに、このたびのプラン策定にあたり、ご尽力賜りました加古川市地域公共交通活性化協議会の皆さまをはじめ、貴重なご意見をいただきました市民の皆さまに、心からお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

加古川市長 岡田 康裕